

カラダのこと
おしえて!

予防から治療、療養から在宅へ。切れ目のない医療を実現するため 訪問看護をご利用ください

「訪問看護」をご存じですか? 「聞いたことはある」「知らないなあ」「今受けています」いろいろな返事が返ってくると思います。訪問看護とは、看護師が利用者の自宅を訪問し、日常生活を送るための医療的な処置をすることです。

近年、入院期間を短くして、できるだけご自宅で過ごしていただくために、退院後も点滴や体に入ったチューブ類の扱い、きずの処置などの継続が必要となるケースも増えています。そして今後もこの傾向は増加していくこととされます。そこで主治医の指示のもと、自宅でも不安なく生活していただ

▶看護師がご自宅へ伺って
さまざまな処置をします。



るよう支援することが、訪問看護師の役割です。

上野総合市民病院では、予防から治療、療養から在宅へと切れ目のない医療を実現していくため、昨年4月、訪問看護室を開設しました。入院中の患者さんの退院準備のための外泊日訪問、退院日の同行訪問は、安心感を持っていただけ、また見つかった課題にその場ですぐ対応でき、効果的です。

誰もが「住み慣れた家・地域で、安心して自分らしい生活を送りたい」と望みます。訪問現場は、笑いあり、涙あり。ご利用者や、ご家族の気持ちを大切に、親切、丁寧な看護を心がけています。

訪問看護に関するご相談を随時受けつけています。訪問看護ステーション(☎24-1111)へ、お気軽にお問い合わせください。

(上野総合市民病院

訪問看護ステーション 管理者 宮本 美千代)



【問い合わせ】 上野総合市民病院 ☎24-1111

伊賀市の文化財 78

市指定有形文化財(建造物)

石造宝篋印塔(玉瀧)

石造宝篋印塔は、墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種で、滅罪や延命などの利益から、追善(死後に供養すること)・逆修(生前にあらじめ供養をすませること)の供養塔、墓碑塔として五輪塔とともに多く造られました。

玉瀧の川上区公民館前にある宝篋印塔は、花崗岩製で、残存高105cm、塔身29cm、屋蓋高42cmあり、屋蓋以下は完全に残っていますが、相輪は不明で、現在は笠部の上に五輪塔の火輪が載せられています。屋蓋の隅飾りは全て根本からなくなっていますが、一カ所にわずかに残る基底部から隅飾りは輪郭を持つ形状のものとして想定されます。

塔身は月輪内に金剛界四部仏の様子を薬研彫りで表わしています。北方は、本来は不空成就如来ですが、本品の場合は金剛界大日如来を配置して「阿闍宝生弥陀大日」と刻しています。また弥陀の面の基礎には「永仁第三年(1295)乙未八月十日」の刻銘を確認でき、三重県で最古の銘を持つ石造物となります。同年のものが霊山寺奥の院の宝塔にも見られますが、宝篋印塔に刻まれた年号としては最古のものです。



◀玉瀧の宝篋印塔

なお、霊山寺宝塔には紀年銘の後に「大工伊行元」という伊派石工銘が認められ、この宝篋印塔の制作にも伊派の石工集団が関与した可能性は大きいと考えられます。伊派といわれる石工集団は、鎌倉時代の奈良東大寺再建にあたり、重源に招かれ宋より日本に渡り、日本に石の加工技術を伝え、後に日本に帰化した石大工伊行末の子孫です。

今年2月12日に市の指定有形文化財(建造物)に指定されました。

文化財室
☎47・1285 FAX47・1290